

平成26年度八重山群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

I 2月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	30	40	30
低い(少ない)	50	40	30

(平成27年1月29日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	19.1	21.6	16.9	139.4	82.1

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 2月の発生予報および防除上の注意事項

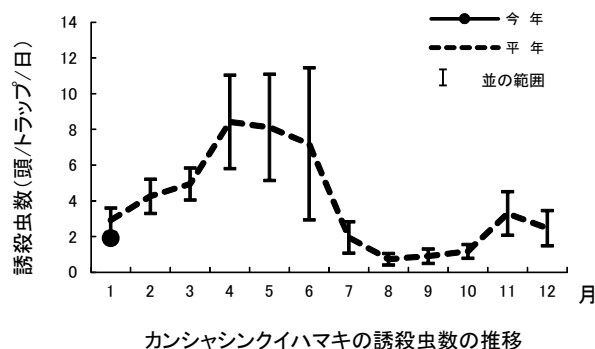
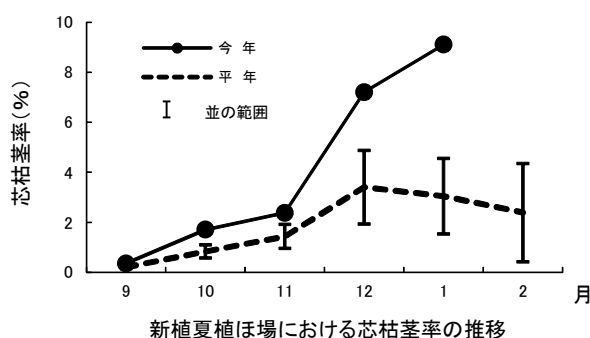
1 さとうきび

(1) カンシャシクイハマキ

発生程度 : 多

予報の根拠

- 1月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は9.1%(前年11.0%、平年3.0%)と平年より高かった。
- 1月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.9頭(前年3.6頭、平年2.9頭)と平年より少なかった。
- 芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち23%がカンシャシクイハマキであった。



<防除上注意すべき事項>

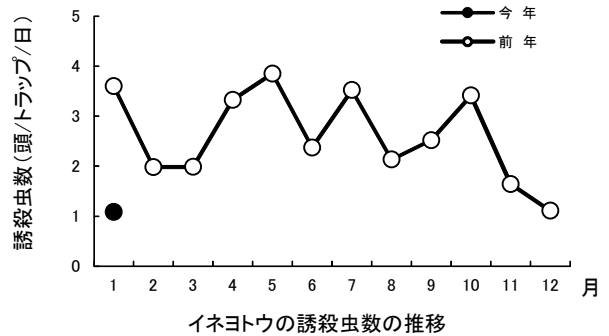
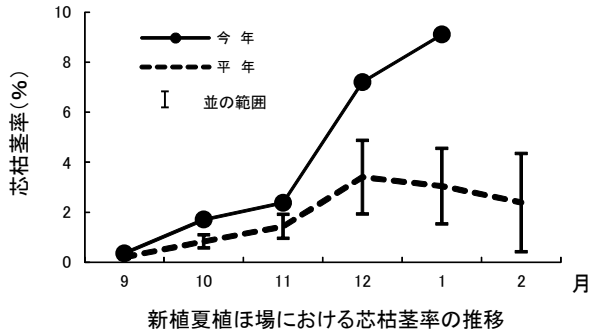
- ふ化した幼虫は、葉裏や葉梢部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等による溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 平成26年度病害虫発生予報第6号(平成26年8月28日付)コラム参照。

(2) イネヨトウ

発生程度 : 多

予報の根拠

- a 1月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は9.1%(前年11.0%、平年3.0%)と平年より高かった。
- b 12月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.1頭(前年3.8頭)であった。
- c 切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち77%がイネヨトウであった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成26年度病害虫発生予報第6号(平成26年8月28日付)コラム参照。

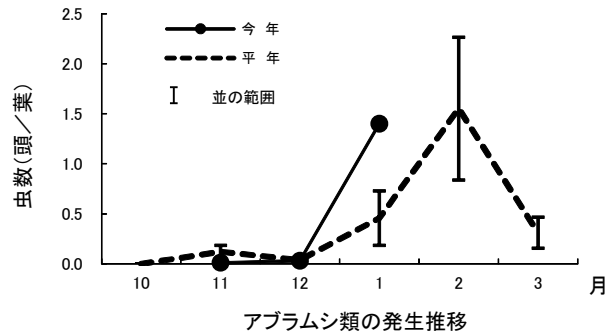
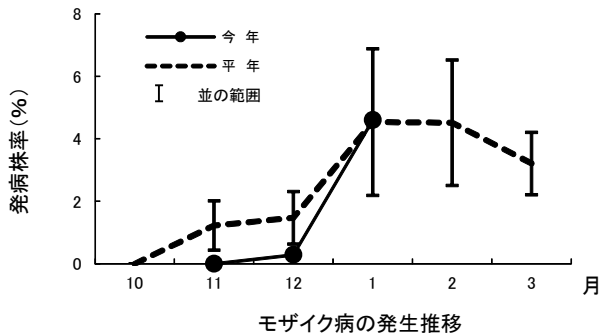
2 かぼちゃ

(1) モザイク病

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 1月下旬の調査の結果、発病株率は4.6%(前年11.8%、例年4.5%)と例年並であった。
- b 媒介虫であるアブラムシ類の葉当たり虫数は1.35頭(前年0.61頭、平年0.46頭)と平年より多く、有翅虫が多く観察された。



<防除上注意すべき事項>

- a ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等の資材を利用して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- b ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- c 発病株は発生源となるので、みつけ次第抜き取りビニール袋に入れるなどして密閉処理し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- d 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
- e 収穫後の残さは発生源となるので速やかに片付ける。